

尼崎市特別職報酬等審議会 議事録（第3回目）

1 日 時 令和7年4月15日（火）10:00～12:00

2 場 所 尼崎市役所 議会棟 西会議室

3 出席者 委員（出席10名）
松並 潤委員（会長） 杉崎 康昭委員（副会長）
加藤 正文委員 久木元 悦子委員
堂園 隆司委員 堀切 敏浩委員
松原 一郎委員 溝口 環委員
森田 紘子委員 百合草 陽子委員
事務局
総務局長 人事管理部長 給与課長
傍聴人
なし

4 審議会進行次第

(1) 配布資料の説明

(2) 審議内容

《市民評価制度について》

委 員： つくば市は実施費用で約2,000万円かかった。呉市や寝屋川市の導入コストはどうなっているか。

事 務 局： 正確に把握できていないが、寝屋川市の場合は従来から行っているアンケートを活用しており費用としては内数であり、呉市の場合は懇話会経費、資料作成等に係る人件費がかかっていると思われる。

委 員： つくば市では2,000万円の費用がアプリの開発等にかかっているが、他の施策にも応用でき一定の意義はあると思う。一方でアプリを使用するのは若い世代が多く、回答数が少なくなるが、その回答を基に退職手当を減額することは政治的であると感じる。制度として100%の肯定意見は出ないので削減ありきになっていることは適切か。寝屋川市は回答結果として肯定意見が多かったが、回答人数は人口の4パーセント程度であり、これが適切かは疑義が残る。呉市はコロナ禍で実施見送りはやむを得なかったが、経費分を市長の退職金から減額することはやらずとも良かったのではと感じた。

委 員： 市民評価制度を賞与や給与に反映する事例でその他はあるのか。

- 事務局： 導入している自治体はあまりない。
- 委員： 尼崎市では市政を市民がモニタリングするような制度はあるのか。
- 事務局： 評価を政策にそのまま取り入れるまでのものはないが、市の自己評価として施策評価を行っている。この仕組みの中で各施策に関連する市民アンケートを取っている。
- 委員： 条例で支給額が決まっているなか、市長の裁量によって退職金の金額が実態として削減され変動している。退職金を裁量で削減する過程が不明瞭であることが問題なのではないか。
- 委員： 呉市のように市長自ら市民にプレゼンをすることは斬新。
- 委員： 市民評価制度をどのような点で活用するのか慎重に検討すべき。市民評価制度で市長の処遇に反映することは、副市長、議員にも影響する可能性があることを考慮すべき。また二元代表制の地方自治制度において、市民評価制度の取扱いを間違えると民主主義の根幹を脅かす可能性があると考ええる。
- 委員： 市民評価制度は市長の退職手当とは分けて考える必要があると感じるが、インターネットを活用した評価制度は検討すべきだと思う。市長の退職手当以外に評価を反映させることを検討するにあたっては、何をもって評価するのかなど難しい課題はある。
- 委員： 今回の審議会の諮問の主旨では市民評価制度の導入に関しては唐突感がある。市民評価制度の導入を検討する必要がある旨を答申に含める形でも良いのではないか。
- 委員： 市民評価制度を導入しない理由があまり分からない。唐突すぎるという意見があったが、先日の兵庫県知事選挙の際に前市長の退職手当に関するSNS上での議論等もあり、世論的にも唐突感があるのかと言われるとそうでもないのではないか。
- 委員： 市民評価制度には肯定的で、市政がオープンになる部分もあり、関心が高まる可能性もあると思う。3市で新しいことに挑戦している姿勢は凄いと思うし、計算も分かりやすく良いと思う。
- 委員： 市民評価制度の導入には総論として賛成だが、給与に反映するにあたっては、仕組みを緻密に作る必要があり、本審議会で結論を出すことは難しい。継続して議論していくことは必要。
- 委員： 市民評価制度は慎重に検討を行い、制度設計をする必要がある。本市の市長選挙・市議会議員選挙の投票率が低い中、市民評価制度を導入しても興味のない市民は参加しないと思われ、回答者の属性等で偏りが生じた中で給与に反映させるのは一定議論が必要である。
- 委員： 市民評価制度を本格的に導入するにあたっては、制度の設計ができていないし、次の審議会の宿題になるのではないか。

委員： 市民参画の在り方がどうあるべきか、その中で市民評価制度をどうするべきかを答申に含めるべきではないか。

事務局： 施策評価制度を運用している中、どれくらい市民の声を反映しているのかといった課題はあると思う。現行の施策評価制度を活用していくことも一つの手段と考える。

委員： では次回に向けて答申素案において、市民評価制度をどのように記載していくのか検討していきたい。

《答申案骨子について》

委員： 骨子は概ね了解した。ただし「引き上げを行うべき積極的な理由が見当たらない」といった表現は見直すべき。これまでの財政状況の改善などは評価すべきと考える。

委員： 引き上げるのは功罪の「功」の部分である。一方で引き上げるとニュースで悪目立ちしてしまう恐れもある。

委員： 今後いつ次の審議会が開かれるのか分からないなか、急激な社会状況の変化も考えられる。そういった部分も踏まえて表現の仕方を検討してはどうか。

委員： 定期的に審議会を開催するべきではないか。市民参画の議論の経過も定期的に確認できる。骨子案自体には賛成。

委員： 結論としては現状維持であるが、現行制度の点検をし、退職手当支給の是非から議論したという経過を明確にすべきではないか。

委員： 答申の結論では記載は難しいが、後段部分に経過を記載し読んでもらえるよう表現等は工夫したい。

《首長の給与に関する報道事例》

委員： 大阪府及び大阪市で退職手当制度を廃止したが、市民の反応はどうだったのか。

事務局： 調べ切れていないが、議会ではさほど反対意見が無かったことは確認している。

以 上